

事業名	山梨近代人物館費		
細事業名	山梨近代人物館管理運営費	財務コード	884401
担当部課室	教育委員会	学術文化財 課	企画 担当（内線） 8503

I 事業の概要

実施期間	始期 H27 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 県民等	その対象をどのような状態にして 文化遺産である県庁別館の特徴を活かし山梨県の歴史や先人達の偉業に関する資料等を鑑賞できる場を提供する。	結果、何に結びつけるのか 山梨県の魅力を知ってもらい、郷土への誇りと愛着をもっていただくとともに、にぎわいの創出に寄与する。
	事業の内容 主にH29年度	<p>山梨近代人物館管理運営費 県指定有形文化財である別館を県民や観光客等に積極的に公開し活用を図り、先人の功績を情報発信する展示を行うため、「オープン県庁敷地整備計画」(H24.3 管財課)に基づき整備された「山梨近代人物館」において、展示案内や教育普及事業等を行う。</p> <p>(1)業務の範囲 ①施設運営 ○利用者対応: 入館者の受付・案内・解説 入館者数等の把握 展示物等の監視 アンケート業務 等 ○展示物の管理: 日常的な展示物の管理 展示テーマ等の県教委との調整 等 ②教育普及事業: 月1回程度のイベント等の企画運営 ③広報事業: イベントチラシ・ポスター等の作成配布 学校関係者への情報提供 ホームページ等での情報発信 等 ④施設・設備の維持管理: 施錠・開錠 照明等の作動・消灯 展示物等の清掃、破損等の確認・報告・対応 日常清掃(床清掃は財産管理課で対応) プロジェクター等の定期メンテナンス 等 ⑤安全対策: 緊急事態が発生した場合の迅速かつ適切な措置 救急用品等の常備 避難訓練等への参加 等 (2)委託先:公益財団法人 やまなし文化学習協会 (3)利用者数:13,775人(H29実績数。開館以来3年間の利用者数:43,655人。年平均14,551人/年)</p>	
根拠法令等	オープン県庁敷地整備計画(H24.3 管財課)、県庁別館展示施設整備検討委員会設置要綱(24.4・管財課・学術文化財課) 山梨県庁舎別館展示施設整備基本計画(H25.3 管財課)		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	28年度	29年度		30年度	31年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	常設展開催日数	330日	329日	329日	329日	330日	目標設定の考え方 平成28年度の実績を参考にした。
	展示替回数	2回	2回	2回	2回	2回	データの出典等 業務実績報告書
	活動指標達成率 (実績値/目標値)			%			
成果指標	利用者数(人) 常設展	13,337人	13,500人	13,775人	13,800人	13,800人	目標設定の考え方 平成28年度の実績を参考に観覧者数見込を算出した。
	成果指標達成率 (実績値/目標値)			102.0 %			データの出典等 業務実績報告書、業務計画書
	決算額又は予算額 (千円)うち一財額	17,478		17,531	17,500	17,780	17,780
所要時間(直接分)	110 時間		110 時間	110 時間	110 時間	110 時間	H29年度の来館者アンケート結果では、約97%の方が満足という結果であり、「山梨の事をよく知らずにこの歳になってしまい、今さらながら恥ずかしくこれから学び、若い人達に伝えて行きたい」「立派な方々を輩出された山梨県は素晴らしい」といったコメントを得ている。
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間	時間	
所要時間計	110 時間		110 時間	110 時間	110 時間	110 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,130円×所要時間)	234		234	234	234	234	

III これまでの事業の見直し・改善状況

--

IV 活動量と成果の判断(平成29年度の業績評価)

(1)事業は予定された活動量を上げているか(「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定 H29年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 ※数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること 活動指標の2指標とも目標値を満たしているため。
	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2)事業は意図した成果を上げているか(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H29年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 ※必ず記載すること 山梨近代人物館の活動については、適切な施設運営や教育普及事業、広報事業が行われており、成果指標である利用者数は13,775人、達成率は102.0%となった。このことから、中心市街地の活性化やにぎわいの創出等のため、「オープン県庁敷地整備計画」(H24.3 管財課)及び「山梨県庁舎別館展示施設整備基本計画(H25.3 管財課)」に基づき整備された山梨近代人物館は、一定の役割を果たしてきていると考える。 また、郷土への誇りと愛着を高めることに加え、県内小中学校の校外学習としての利用実績から、特に若い世代に対し、郷土への誇りと愛着を高めることに寄与していると考えられる。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

V 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
有	入館者アンケートでは告知不足や場所が分かりにくいといった意見もあることから、関係課と協議しながら案内看板等の県庁構内への設置を進めるなど、より積極的に周知を行う必要がある。 また、現在、県内全小中学校には、館の利用方法や周辺の見学施設紹介などを記載した近代人物館の利用案内を出していることから校外学習等での利用があるが、より多くの学習機会を提供できるよう、高等学校や特別支援学校向けに案内を出して、より積極的な利用を促していく必要がある。 展示内容については、県政の歴史や概ね明治時代から戦前に活躍した山梨ゆかりの人物の功績を伝える現在の展示内容をより魅力的にしていけるため、音声案内の充実など、児童生徒等が楽しく学び観覧できるための工夫をしていく必要がある。 また、当施設は展示と映像などを効果的に組み合わせたダイナミックな展示手法としているが、経年によるタブレットやパソコン、映像機器などの故障等の可能性が高まることから、常に適切に展観できるよう機器更新も含めメンテナンスに留意する必要がある。	b,m

・「IV以外の判断項目」の欄

a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) ※行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	IV以外の判断項目
有	来館者数も堅調に増加し、多くの来館者の満足を得るなど、運営上、一定の成果をあげていることから、引き続き魅力ある展示を行うとともに、入館者アンケートの設問内容を見直し、来館の契機を把握・解析しつつ、観光部局等と連携するなど、効果的なPRを図り、賑わいの創出に取り組む。 他方、より多くの方に山梨県の魅力を知ってもらい、郷土への誇りと愛着をもってもらいながら、それを次代に継承してくため、特に子ども・若者をターゲットとした運営の検討を進める。 また、学校教育の場としてより効果的に活用できるよう、学校現場のニーズを反映した児童生徒等が楽しく学べる展示方法等の検討を進める。 なお、経年によるタブレットやパソコン、映像機器などの機器更新も含めメンテナンスに留意する必要がある。	b,m

・「IV以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

VI 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 ※「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	学校教育の場として効果的に活用するためには、展示内容や方法について、学校現場の意見・ニーズを踏まえた事業展開をする必要があることから、教職員等との協議の場を設置するなどして、児童生徒等が楽しく学び展観できる方策を協議する。 協議した結果を踏まえ、児童生徒等が楽しく学べる新たな展示内容・方法等について、企画する。 なお、平成30年10月から入館者アンケートの設問内容を改め、来館の契機を詳細に解析しているところである。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、V見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること

・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名: 学術文化財課

細事業名: 山梨近代人物館管理運営費

調書番号: 10

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H29 所要時間 (h)	H30 所要時間 (h)A	H31 所要時間 (h)B	縮減等 B-A	具体的業務の見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)	
1 委託契約事務	委託契約書作成、契約、選定結果の公表	4月	5	5	5	0	なし	契約に係る事務であり適正な時間で処理しているため	
	精算	四半期毎	5	5	5	0	なし		
	毎月の定期報告、実績報告書等受付	定期報告は毎月、実績報告書等は翌4月	2	2	2	0	なし		
	翌年度の業務委託者選定委員会の設置、開催	1月～3月	25	25	25	0	なし		
	翌年度の契約準備行為、委託業者選定作業	2月～3月	30	30	30	0	なし		
	展示替え、教育普及事業打合せ	5月、10月	5	5	5	0	なし		次期展示替え等に関する打合せであり不可欠
	展示準備、展示替え立ち会い	8月～9月 2月～3月	30	30	30	0	なし		展示内容に関する博物館学芸員の専門的支援であり不可欠
	県ホームページにおける広報支援等	通年	8	8	8	0	なし	県ホームページへの掲載記事の修正支援等は、所管課として不可欠	
(小計)			110	110	110	0			
2						0			
						0			
						0			
						0			
(小計)			0	0	0	0			
3						0			
						0			
						0			
						0			
(小計)			0	0	0	0			
所要時間 (計)			110	110	110	0			

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「Ⅱ 事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)